

[IV. 供給計画の概要]

1. 電力需要の見通し

(1) 販売電力量

- ・平成22年度は、景気回復に伴う生産水準の上昇等により、前年比1.9%増（気温補正後）と3年ぶりにプラスの伸びを見込む。
- ・中長期的には、経済の緩やかな成長が見込まれるものの、他エネルギー産業との競合激化や省エネの進展も予想されることから、平成20～31年度までの年平均増加率は、1.0%（気温補正後）を見込む。

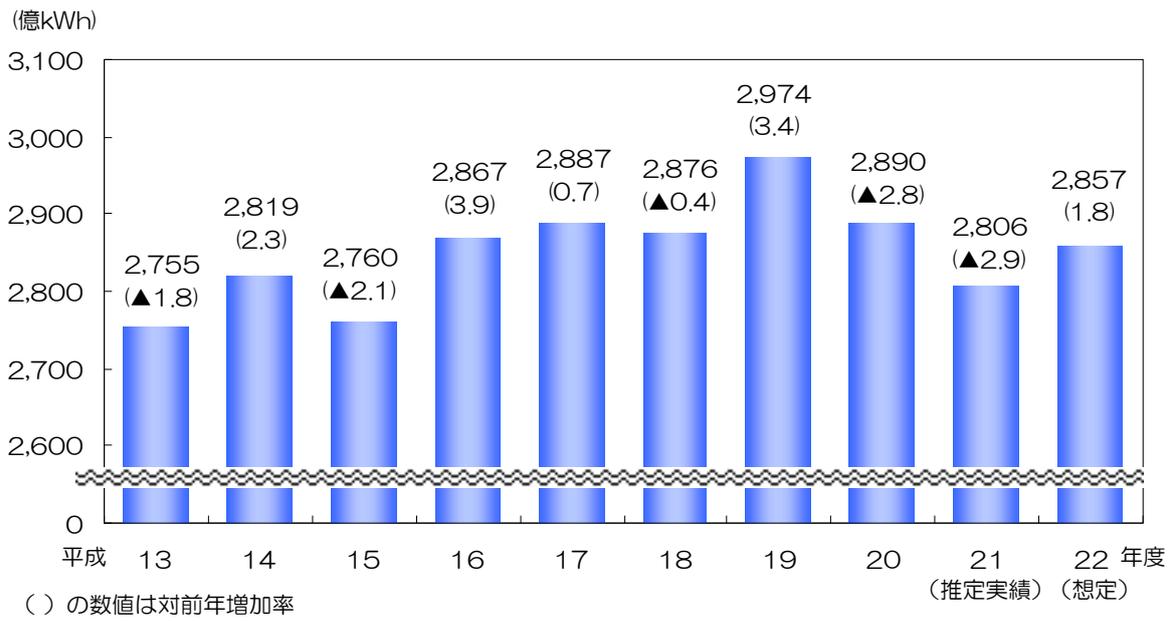
(2) 最大電力

- ・平成22年度は、景気の緩やかな回復による販売電力量の増加等から、前年を上回る5,910万kW（発電端1日最大）を見込む。
- ・中長期的には、景気の緩やかな回復を背景に電力量も緩やかな伸びが見込まれる中、蓄熱システムの普及促進等による負荷率改善により、平成20年から31年度までの年平均増加率は、0.5%（送電端最大3日平均・気温補正後）を見込む。

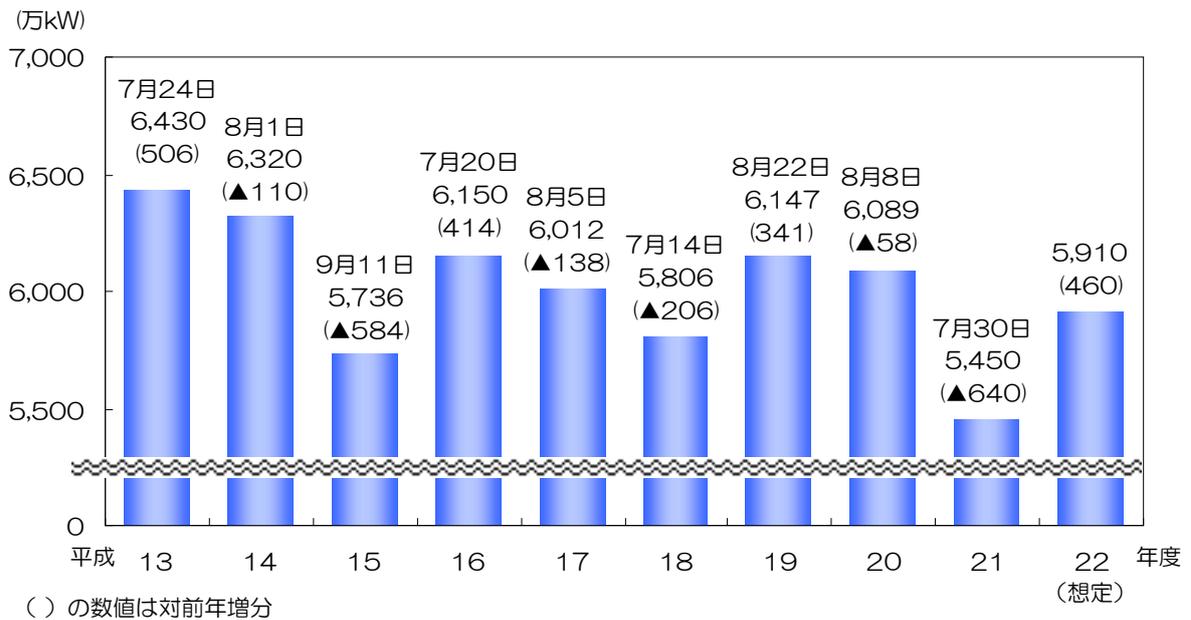
	平成20年度 実績 (2008)	H21 推定実績 (2009)	H22 (2010)	H31 (2019)	H20～31 年平均増加率 (%/年)	前回計画との比較 平成30年(2018)		
						今回	前回	
販売電力量 (億kWh)	2,890	2,806	2,857	3,216	—	3,183	3,291	
対前年増加率 (%)	▲2.8 (▲1.9)	▲2.9 (▲2.9)	1.8 (1.9)	—	1.0 (1.0)	前回差▲108億kWh 前回比 96.7%		
最大電力	送電端 最大3日平均 (万kW)	5,891	5,254	5,665	6,150	—	6,114	6,228
	対前年増加率 (%)	▲0.1 (1.0)	▲10.8 (▲3.7)	7.8 (1.3)	—	0.4 (0.5)	前回差▲114万kW 前回比 98.2%	
	発電端1日最大 (万kW)	6,089	5,450	5,910	—	—		

(注)・販売電力量の()内は気温うるう補正後。最大電力の()内は気温補正後の増加率
 ・平成21年度の「送電端最大3日平均」および「発電端1日最大」は、7月値

<販売電力量の推移>



<最大電力の推移 (発電端1日最大)>



2. 電源設備計画

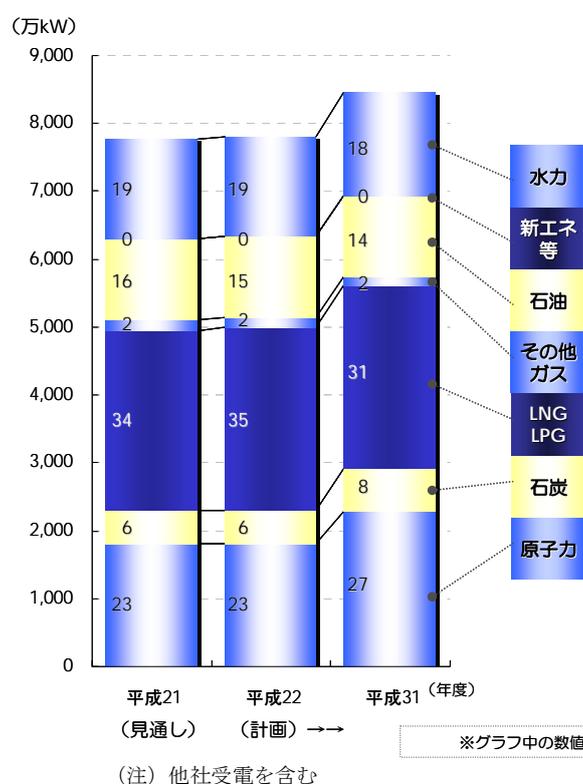
< 主要な電源開発 >

電源	地点名	出力 (万kW)	運転開始年月
原子力	福島第一-7, 8号	各138	28/10, 29/10
	東通1, 2号	各138.5	29/3, 32年度以降
石炭火力	常陸那珂2号	100	25/12
	広野6号	60	25/12
LNG火力	富津4号系列	152	20/7, 21/11, 22/10
	川崎2号系列	192	25/2, 28年度, 29年度
	五井1号系列	213	32年度以降
揚水式水力	葛野川	160	11/12, 12/6, 32年度以降
	神流川	282	17/12, 24/7, 32年度以降
新エネルギー	浮島太陽光	0.7	23/8
	扇島太陽光	1.3	23/12
	米倉山太陽光	1.0	23年度, 25年度
	東伊豆風力	1,837	24/3

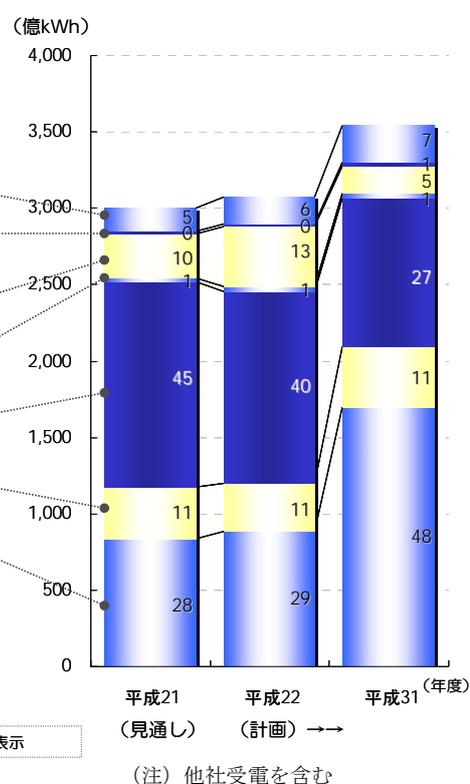
< 電源の広域開発計画 >

	地点名	開発会社	出力 (万kW)	運転開始年月
原子力	大間	電源開発(株)	138.3	26/11

< 年度末電源設備量の推移 >



< 発電電力量の推移 >



< 参 考 > 電気事業設備投資額

平成22~24年度の3年間平均で7,800億円程度を見込んでいます。